



新年を迎えて



一般財団法人日本 ITU 協会
理事長

おがさわら みちあき
小笠原 倫明

明けましておめでとうございます。

皆様には御清祥にて新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年、私達はリオから多くの感動を頂きました。3年後は東京から感動をお届けする番です。こうして世界中の人々がオリンピック・パラリンピックの映像を同時に、かつ高い品質で共有できるのも、ITU（国際電気通信連合）を中心とするこれまでの国際標準化活動の成果の一つです。そして現在もITUにおいては、5GやIoTなど今後の社会に大きなイノベーションをもたらすと期待される様々な領域での議論が行われています。

昨年7月、東京でAPT（アジア・太平洋電気通信共同体）のPRF-16（政策・規制フォーラム）が開催されました。アジア・大洋州のハイレベルの関係者が多数参加し、情報通信に関する域内の課題の共有と解決に向け、大きな成果が挙げられました。当協会もこの会合の運営の一端を担わせていただきましたことに深く感謝申し上げる次第です。

本年も、当協会は、このようなITUやAPTの重要な動向を把握し、研究会の開催や機関誌の発行等を通じて、皆様への発信に取り組んでまいります。

昨年はITU-T（標準化）部門の総会にあたるWTSA-16（世界電気通信標準化総会）が開催されましたが、今年は10月にブエノスアイレス（アルゼンチン）でITU-D（開発）部門の総会にあたるWTDC-17（世界電気通信開発会議）が開催されます。これらは来年のITU PP-18（全権委員会）につながる重要な会合です。当協会では、本年は特にITU-D及びPP-18に関する情報の展開に注力したいと考えております。

また、標準化活動など国際場裡で活躍する人材の育成は我が国の大きな課題です。当協会が一昨年に開始した

「パフォーマティブ・ 세미나」は、外国人俳優等を相手にロールプレイを行うことによって国際会議の様々なシーンを再現し、これを通じて国際担当の交渉能力等を高めていただくとするものです。幸い会員企業から参加された皆様に好評を頂いております。本年は一層工夫を凝らし、更にお役に立てる場に育ててまいります。

当協会は、こうした活動を通じて、我が国の国際的プレゼンス向上に貢献するとともに、引き続き顕彰事業等の公的目的事業の実施に努める所存でありますので、会員企業の皆様の変わらぬ御支援をお願い申し上げます。

最後に、本2017年が、皆様にとりまして幸い多き年となりますことを心からお祈りし、新年の御挨拶とさせていただきます。



パフォーマティブ・
セミナの様子

